

◆経済倶楽部講演会第4502回（6月21日）

新しい現実 22世紀へ向けての 経済・金融市場・金融政策・中央銀行

慶應義塾大学大学院教授 小幡 ばた 績 せき



- *もう不可能な財政再建、少子化対策
- *政治家も官僚も頼りにならない日本
- *近代資本主義の本質は流動化
- *短期・中期・長期のバブルについて
- *これから終焉を迎える近代資本主義
- *世界は流動化から固定化に向かう
- *地味で安定繰り返し返しの時代へ
- *今や末期的症状を呈する経済成長
- *AI、半導体バブルは5年以内に破裂
- *競争が悪だと考える理由

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日の講師、小幡先生のご紹介をさせていただきます。小幡績先生は現在は慶應義塾大学のビジネススクールの教授をされておられまして、東大の経済学部を出られた後、大蔵省、一橋大学を経て慶應で教鞭を執っておられます。2001年にはハーバード大学で経済学の博士号を取っていらつしやいます。実は『東洋経済オンライン』には2012年からずっとコラムを書いていただいて、かなり長いコラムで、最近3週間に一度、非常に長文のコラムを続けて書いていただいております。『東洋経済オンライン』がいつも年末に非常に評判の高い先生をお呼びして賞を差し上げているんですけども、2020年度に年間賞としてロングランヒット

賞を取っていらつしやいます。読まれている方も多いと思いますけれども、皆さんの言っていることは本当ですかとズバズバと豪速球を投げた感じで文章が展開しますので、実はかなり長いコラムなんですけれども最後まで読んでしまう。その後にはまた競馬のビジネス、もしくは競馬のレースについての分析も非常にファンがおりまして、長い間書いていただいているというのが今日までの経緯でございます。

本日はお配りしたものに「新しい現実 22世紀の経済・金融市場・金融政策・中央銀行」ということなんですけれども、私は初めこれを見たときに21世紀の間違いじゃないかなと思っただけなんですけれども、22世紀ということ、今日はかなり長いスパンの大きなお話を伺